

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	兵庫県	市町村名	神戸市	委員会名	神戸市教育委員会
派遣日	令和2年7月30日(木曜日) 14:00~16:30				
派遣者	京都市教育委員会指導部学校指導課 副主任指導主事 大菅 佐妃子				
相談者	神戸市教育委員会学校教育部学校教育課 指導主事 辻 敏彰				
相談内容	公立学校に在籍する日本語指導が必要な子供たちが増加する中、外国人児童生徒に対する教育の充実が求められている。彼らの日本語能力を的確に把握し、日本語指導のあり方や日本語指導が必要な子供たちへの理解を深める研修を推進するために、昨年に引き続き、講師として大菅先生の派遣を要請した。 ※本市主催「日本語指導基礎講座」における講義・演習 「(続)在籍学級の授業につながる日本語指導 ~JSLカリキュラムの授業づくり~」				
派遣者からの指導助言内容	<p>1 生活経験・学習経験の把握 在籍学級の授業に困難を感じる5つの要因として、①学習内容そのものが未習得、未経験、②母国との学習形態や指導方法の相違、③日本の文化背景や生活習慣に関する知識不足、④多人数への発話を聞き取る力の不足、⑤理解できた内容を表現する力の不足、が挙げられる。日本に来るまでの生活・言語環境・就学状況・学んできた教科・好きなこと・苦手なことなど母国での生活経験、学習経験の把握が重要。</p> <p>2 日本語指導のコース設計 「サバイバル日本語プログラム」では、4技能すべての力をつける必要はないこと。「日本語基礎プログラム」では、定着に固執しない、何度も触れる機会、実際に使う場面を設定すること。「技能別日本語プログラム」では、自律的に学ぶ力をつけること。「日本語と教科の統合学習プログラム(JSLカリキュラム)」では、日本語で学習活動に参加する力の育成を図ること。「教科の補習」プログラムでは、学級担任や教科担任と相談して内容を決定すること。</p> <p>3 指導計画 一人一人の子供の現状や、年間行事予定・各教科の指導計画から考えるとよい。</p> <p>4 JSLカリキュラムの考え方 JSLカリキュラムの特徴 ① 「日本語」と「内容(教科等)」の統合教育。 ② 「子供たちの多様性に即して」柔軟に。 ③ 「授業づくりのツール」の提供。※ あくまでも日本語で学ぶことが重要</p>				

	<p>5 J S Lカリキュラムの授業づくり</p> <p>「トピック型」授業のつくり方 各教科共通の基本的な活動に参加する力 興味・関心のあるトピック「体験」→「探究」→「発信」 具体物や直接体験、他の子どもとの関わりを通して</p> <p>「教科志向型」授業のつくり方</p> <ol style="list-style-type: none">① 在籍学級の授業を分析する（授業参加に必要な力、つけたい教科の力など）。② 目標を決める（教科の目標・日本語の目標）。③ 計画・展開を考える（いつ、どんな学習活動をするのか）。可能であれば、先行授業を実施する。④ 「理解支援」「表現支援」を工夫する。 <p>※J S Lカリキュラムにおける5つの支援</p> <ol style="list-style-type: none">① 理解支援…視覚化、例示、言い換え、比喩、明示 等② 表現支援…表現方法、モデル、キーワード、対話 等③ 記憶支援…視覚化、身体化、物語化、反復 等④ 自立支援…自分で学んでいけるように⑤ 情意支援…意欲的に学んでいけるように
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<p>受講者のアンケートを集約すると、J S Lカリキュラムの理論や技術を学べたことで、2学期からの授業活動に生かしていきたいという意見や、更に具体的な指導・支援方法を知りたいという積極的な感想がみられた。今後の研修においても、外国人児童生徒等に対する指導・支援において大切なポイントを押さえ、演習を通して実践力を培える研修を継続していきたい。そのために、日本語指導アドバイザーの派遣制度を引き続き利用したいと考えている。</p>

1枚にまとめる必要は、ありませんので、詳細に記載願います。